

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

東近江市長 小 椋 正 清

| | |
|-------------------|-------------------|
| 市町村名 (市町村コード) | 東近江市 (252131) |
| 地域名 (地域内農業集落名) | 僧坊 (僧坊町) |
| 協議の結果を取りまとめた年月日 | 令和7年2月3日 (第1回) |

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・H27年に「農事組合法人僧坊生産組合」(以下、組合という。)を設立。現在、僧坊の農家全戸が加入し、農家の所有する農地(水田)のほぼ100%を農地中間管理機構を通して組合に集積し、水稻・麦・大豆を作付けしている。・組合の安定的・継続的な運営が最大の課題。 |
|--|

(2) 地域における農業の将来の在り方

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・今後も引き続き水稻・麦・大豆の生産を行う。・各作物の収量・品質の向上、生産コスト及び作業時間の低減をJA・県農産普及課の指導・助言を受けながら目指す。 |
|---|

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

| | |
|----------------------------------|---------|
| 区域内の農用地等面積 | 17.0 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積 | 17.0 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | ha |

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

| |
|-------------------------------|
| 農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。 |
|-------------------------------|

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

| |
|--|
| (1) 農用地の集積、集約化の方針 |
| ・すでに農地のほとんどが組合に集積されていることから、組合が安定的・継続的に運営することにより、農用地の集積、集約化を維持継続する。 |
| (2) 農地中間管理機構の活用方針 |
| ・組合設立当初から農地中間管理機構を活用しており、今後も継続して活用していく。 |
| (3) 基盤整備事業への取組方針 |
| ・土地改良事業実施後50年以上経過している農地もあり、用排水路の老朽化による水漏れや陥没、畦畔・法面の陥没、暗渠排水の詰りなどが増えてきている。 ・軽微な補修は組合で実施しているが、今後は規模的にも経費的にも組合単独では対応できないことから、関係集落との調整、土地改良区での対応要請などが必要と考えられる。 |
| (4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針 |
| ・現在、組合の作業に従事する人は50才代・60才代が中心で、今後10年程度は継続可能と思われる。 ・しかし、その後は組合内部での従事者確保が厳しことから、近隣組織との連携や広域での運営など新たな運営方式が必要になると考えられ、JA・県農産普及課の指導・助言を受けながら検討していく。 |
| (5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 |
| ・農機具投資の軽減、作業の効率化、作業従事者の労力軽減等が期待できる水稻の育苗、水稻・麦・大豆の乾燥調製や防除作業は、湖東農業協同組合や(株)タカノ電気への委託を継続する。 |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

| | | | | | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|---------------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ③スマート農業 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ④輸出等 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ⑤果樹等 |
| <input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ⑧農業用施設 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> ⑩その他 |

【選択した上記の取組方針】

②環境こだわり農産物等の生産に取り組む。

⑧農業倉庫をはじめ農機具の多くは組合設立時の初期投資を抑えるため農家(組合員)からの借上げでスタート。10年間をかけて国の「経営基盤強化準備金」制度や市の「営農組織育成対策事業」を活用して計画的に導入。10年を経過し今後は計画的に更新をしていく予定であるが、近年、農機具をはじめ全ての生産資材の値上げで生産コストがアップし経営努力での対応も限界にきている。こうしたことから、市単事業の拡充を要請するなどの取組も必要と考える。